

2004年の国際石油情勢と原油価格展望

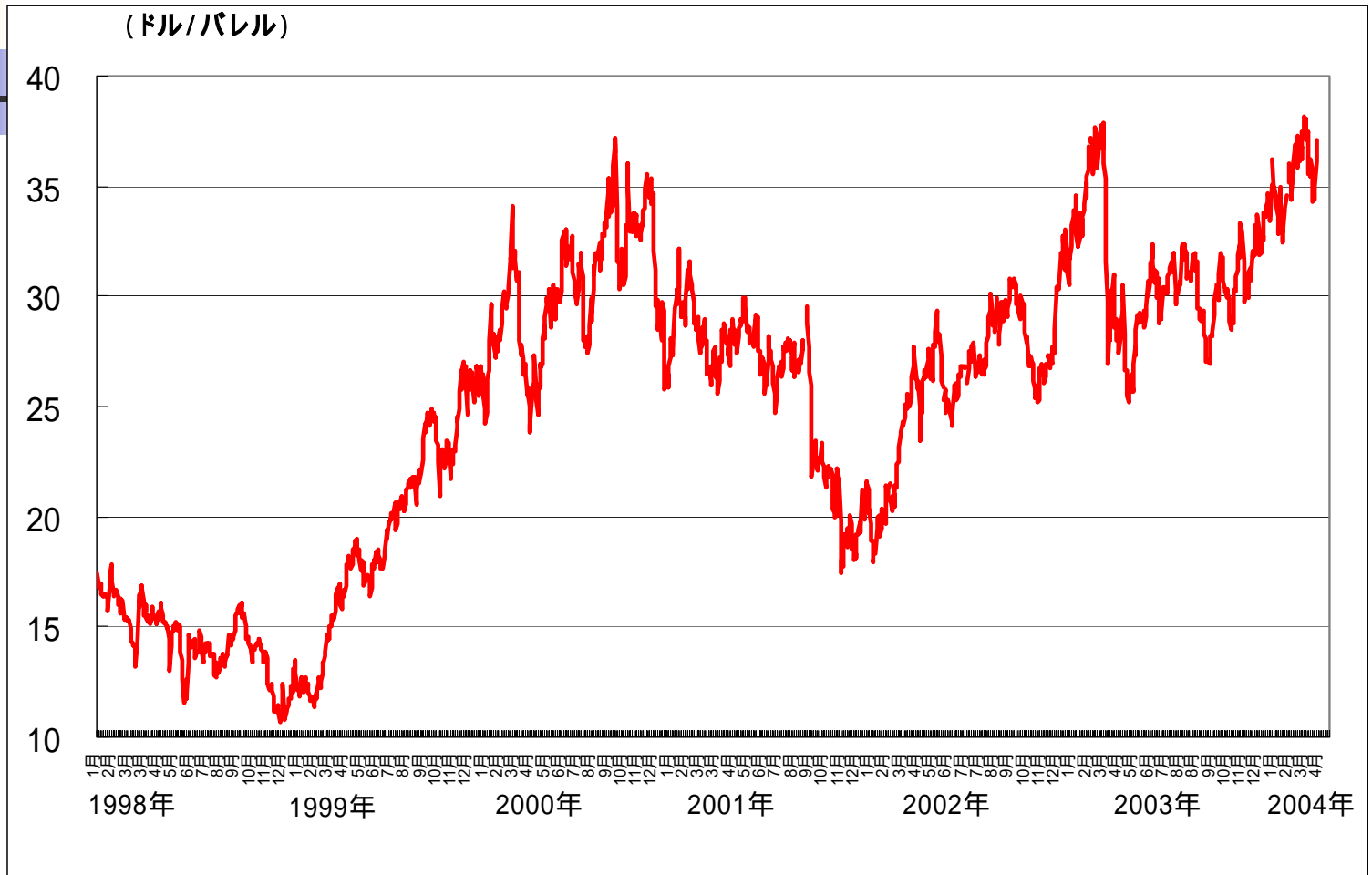
(2004年4月アップデート)



平成16年4月27日


(財)日本エネルギー経済研究所
総合エネルギー動向分析室長 小山 堅

高騰を続けるWTI原油先物価格



(出所)NYMEX資料等よりエネ研作成

2004年の国際石油市場を左右する主要因

- 
- **イラク情勢の展開と石油生産・輸出の行方**
 - **世界の石油需要の伸び**
 - **非OPEC石油生産の増加動向**
 - **ベネズエラ、ナイジェリア等、主要産油国における供給支障発生(懸念)の可能性**
 - **上記諸要因や市場状況に対するOPECの対応**

最近のイラク情勢

■ 悪化する治安とテロの多発・拡大

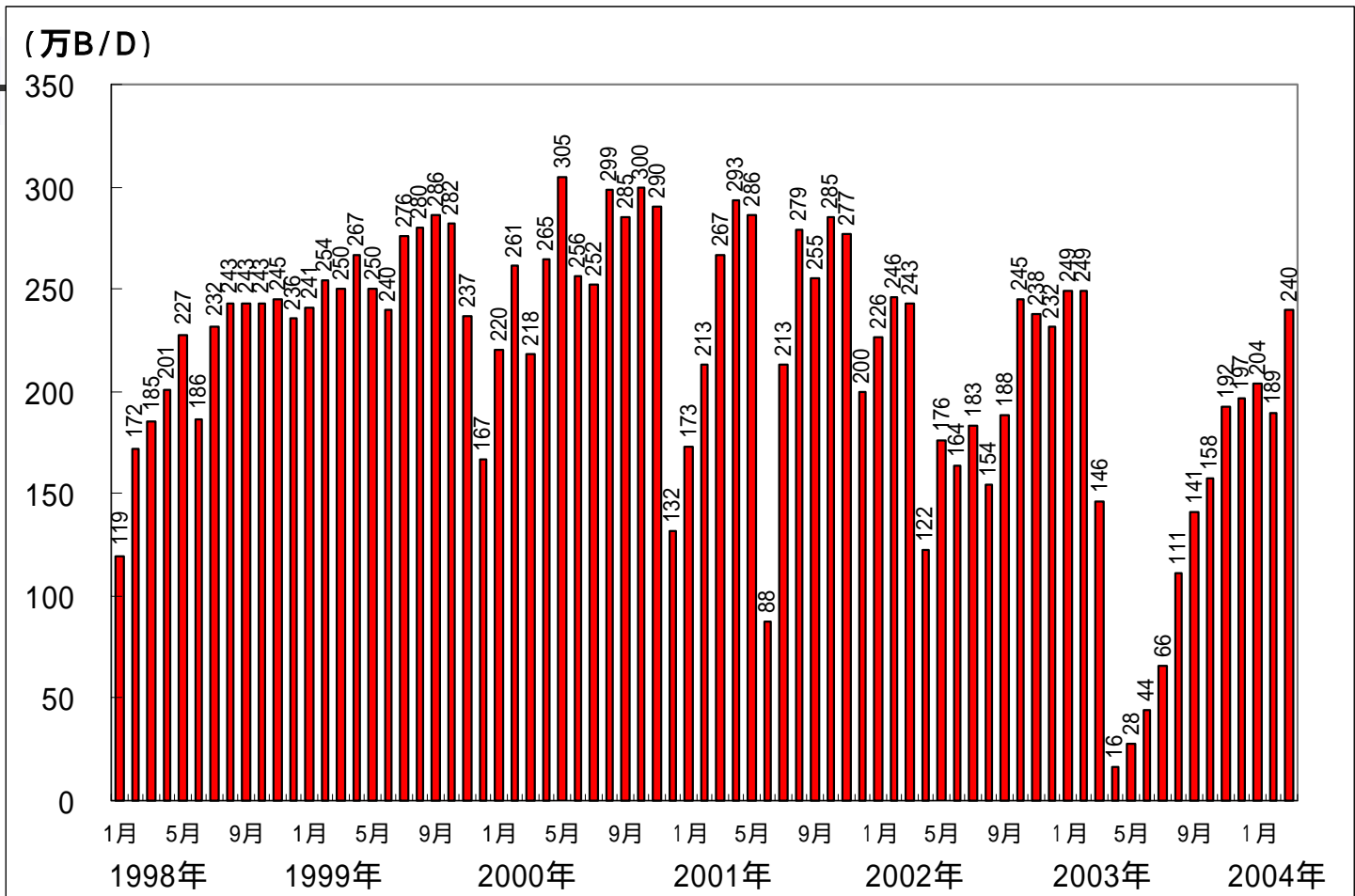
- 米軍へのテロ増大・頻発(米軍犠牲者は「イラク戦争」時の犠牲者を大幅に超過)
- テロ対象範囲・ターゲットの拡大
- 拡大・組織化されるテロと犠牲者の増加

■ 復興と安定化に向けた動き

- 03年10月、イラク安定化に向けた国際社会の関与強化を求める国連決議(1511) + イラク復興支援会議の実施(330億ドル拠出プレッジ)
- 03年11月、米、イラク主権移譲の前倒しへと政策転換
- 米軍による武装勢力(テロ勢力)掃討作戦の開始と強化
- 03年12月13日、サダムフセイン元大統領拘束
- 04年2月、国連アナン事務総長、イラク統治に関する報告書を安保理に提出。選挙準備に8ヵ月必要との見解(選挙は年末or来年初、主権委譲は6月末の当初予定通りの実施?)
- 04年3月、シーア派を狙った同時爆破テロ発生
- 04年4月、過激派・武装勢力との「戦闘」激化と治安情勢の極端な悪化

■ 石油生産は2004年3月時点で240万B/Dまで回復(南部195万B/D、北部45万B/D。輸出量185万B/D)

イラクの石油生産動向

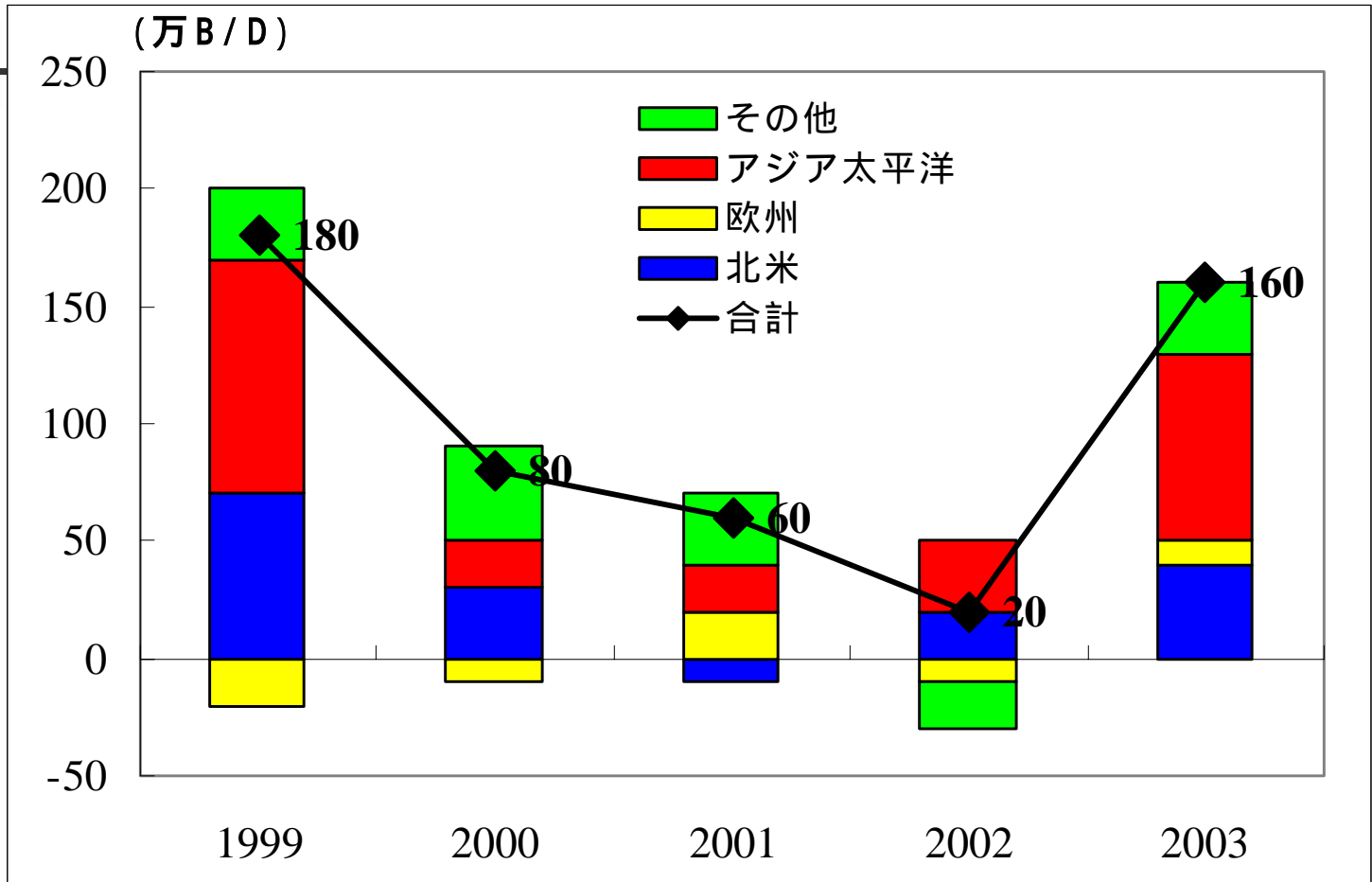


(出所) IEA「Oil Market Report」よりエネ研作成

今後のイラクの生産・輸出動向のポイント

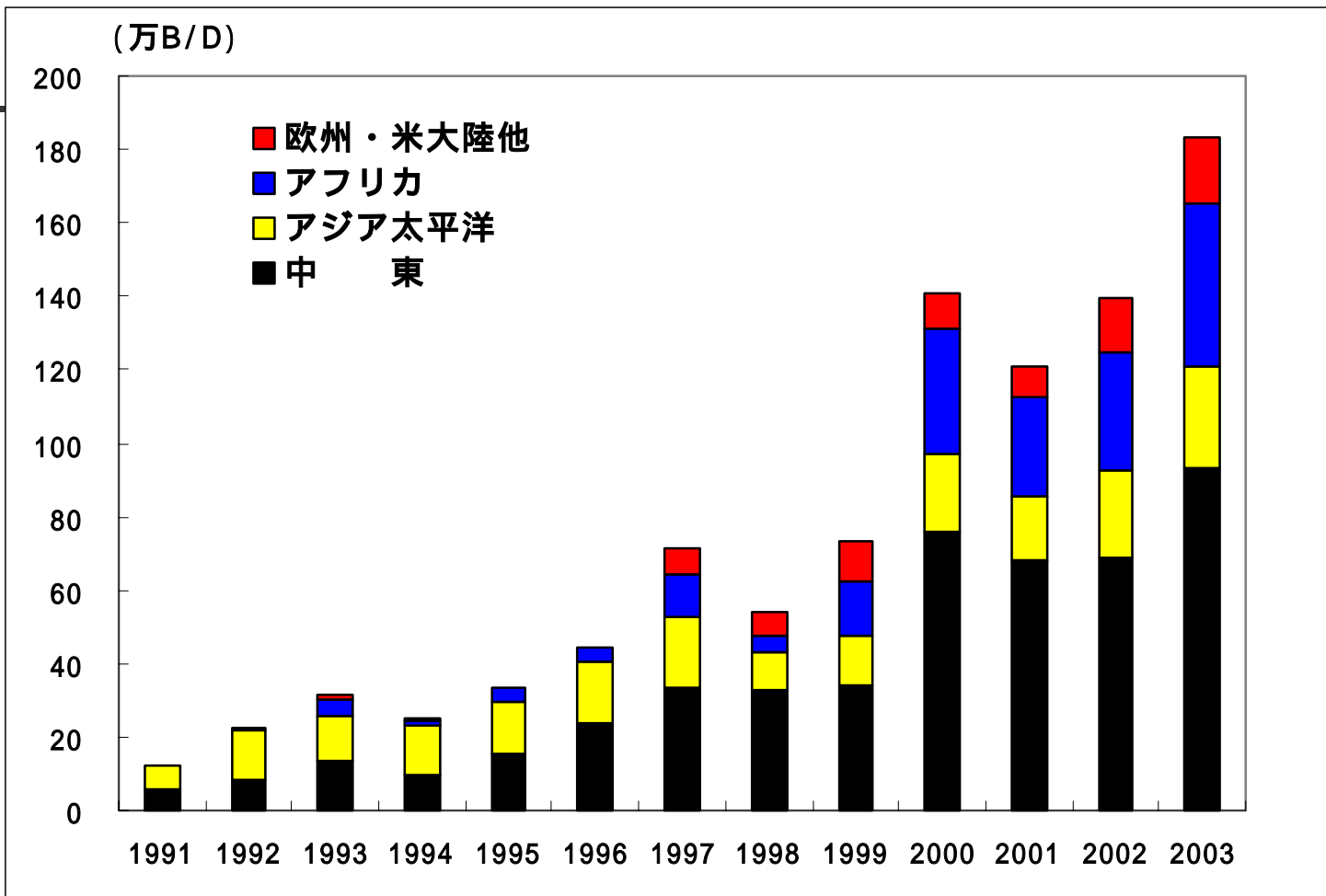
- イラク石油当局による今後の「公式な」生産目標は、2004年1Q末280万B/D
- 生産・輸出拡大および安定化の鍵を握るポイント
 - 国内治安の回復
 - 輸出インフラの整備
 - 04年2月までの輸出ルート(バスラターミナル)能力は160万B/D前後でほぼフル稼働
 - Khor-Al-Amayaターミナル再稼働(3月平均10万B/D前後の輸出)
 - トルコ向けPL再稼働(3月平均20万B/D前後の輸出)
 - 生産維持・拡大のための油田管理と投資の重要性
 - 現状の生産の主力は南部(約195万B/D)。北部は45万B/D程度。
 - 北部油田には生産余力もあるが、輸出ルートの確保に依存
 - 過去数ヶ月の急激な増産による「悪影響」への懸念も

世界の地域別石油需要の増減動向



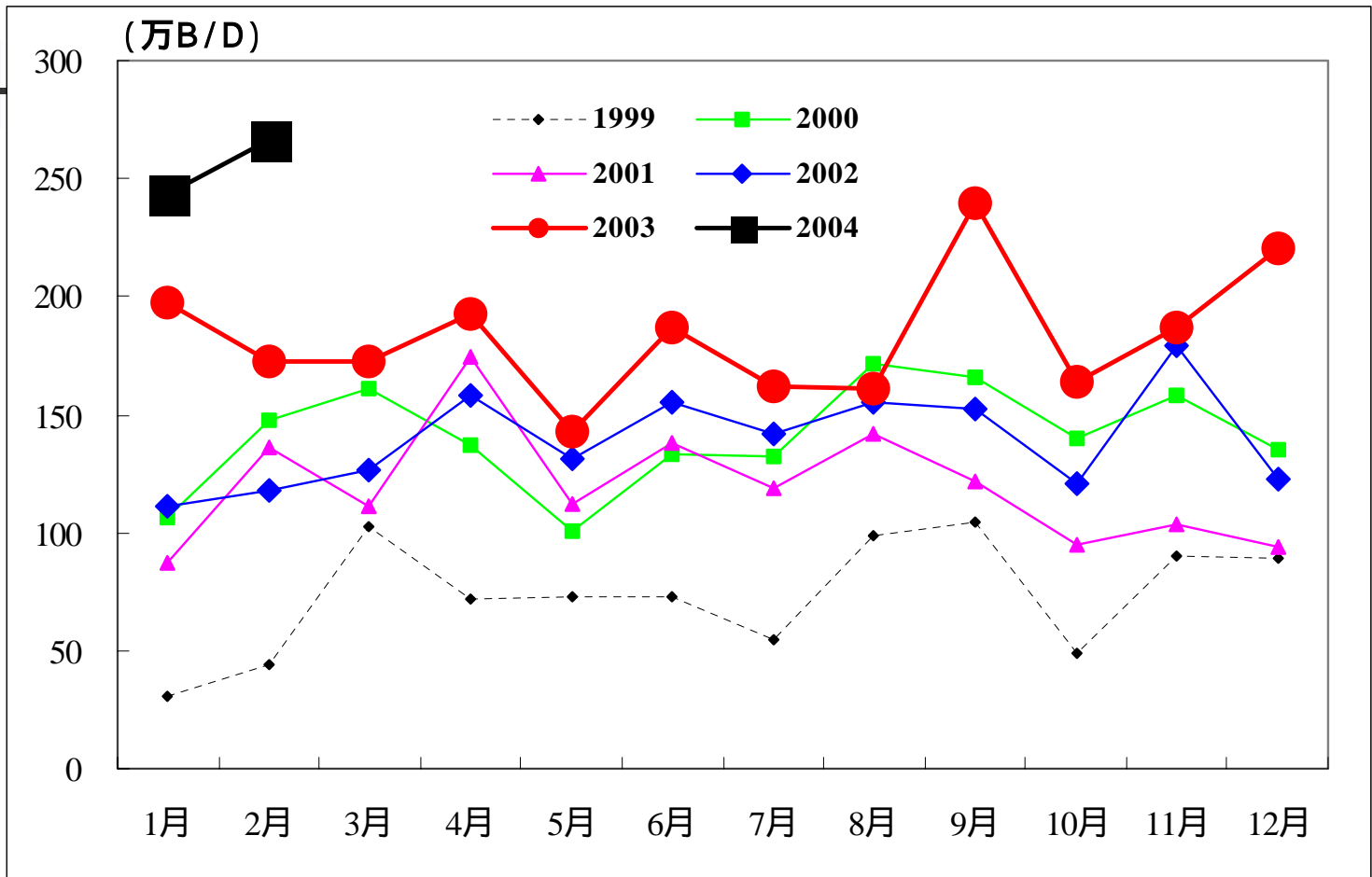
(出所) IEA「Oil Market Report」より作成

中国の原油輸入動向



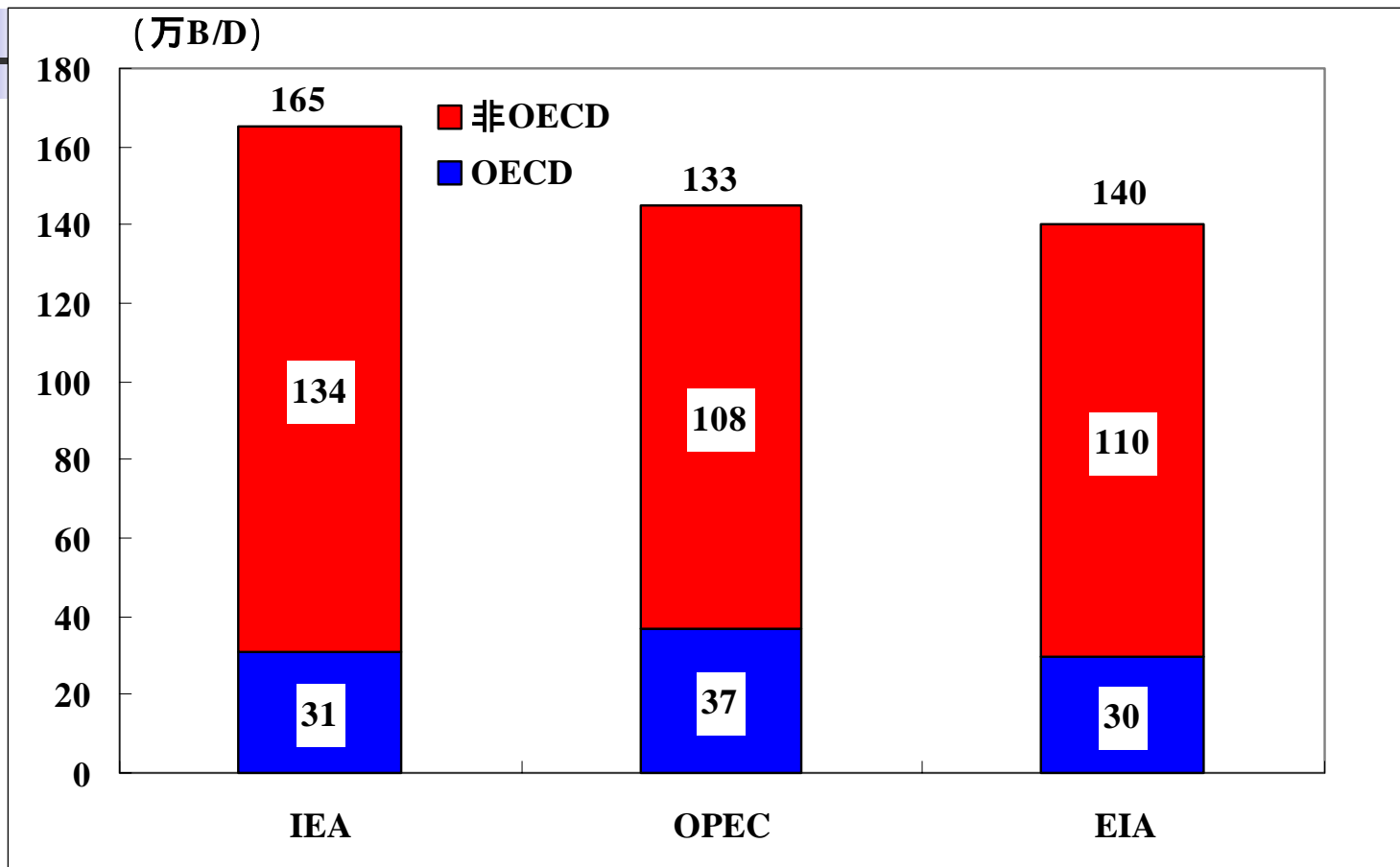
(出所) 中国海関統計等より作成

中国の原油輸入動向(月次ベース)



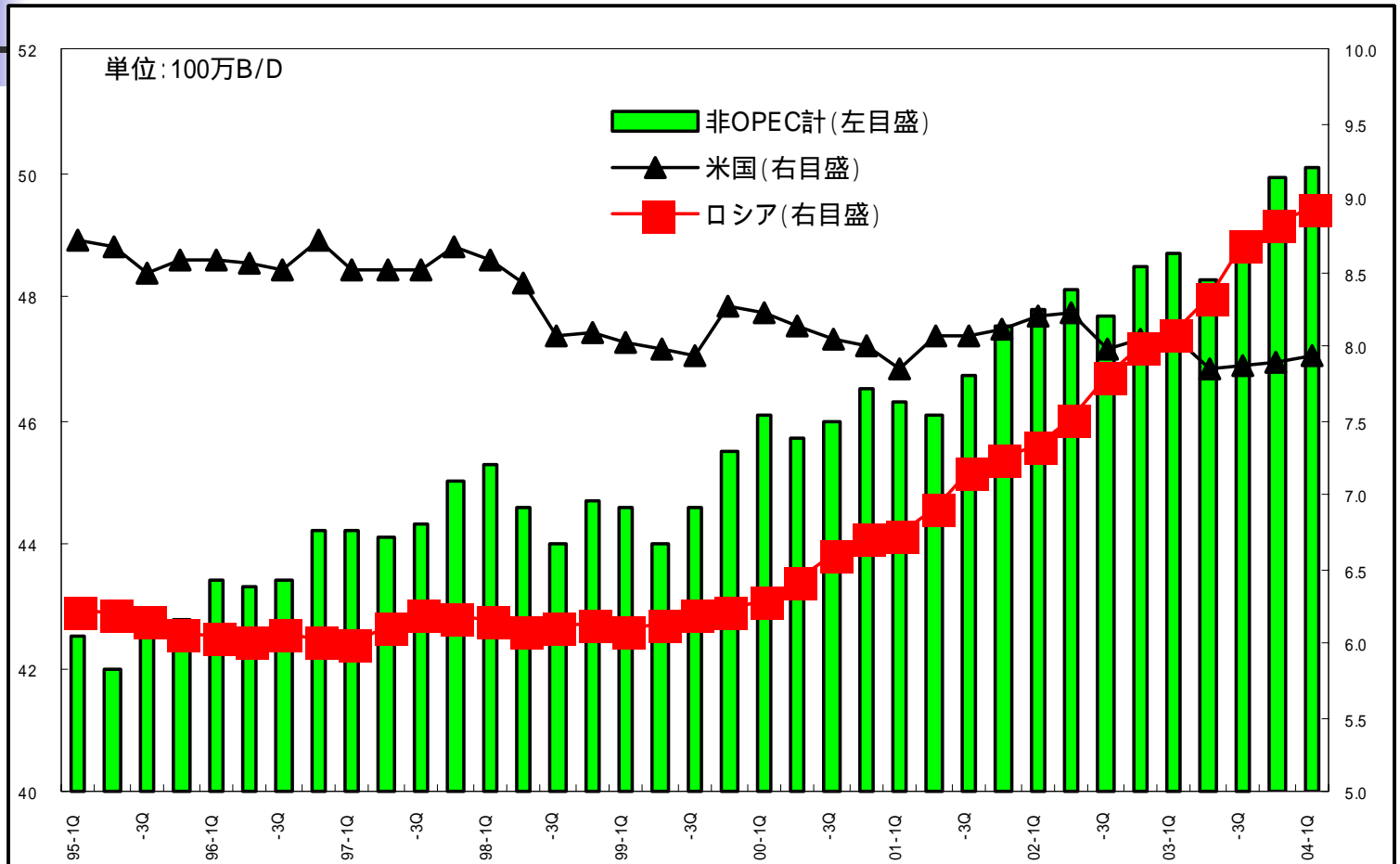
(出所) 中国海関統計等より作成

2004年石油需要増分の見通し比較



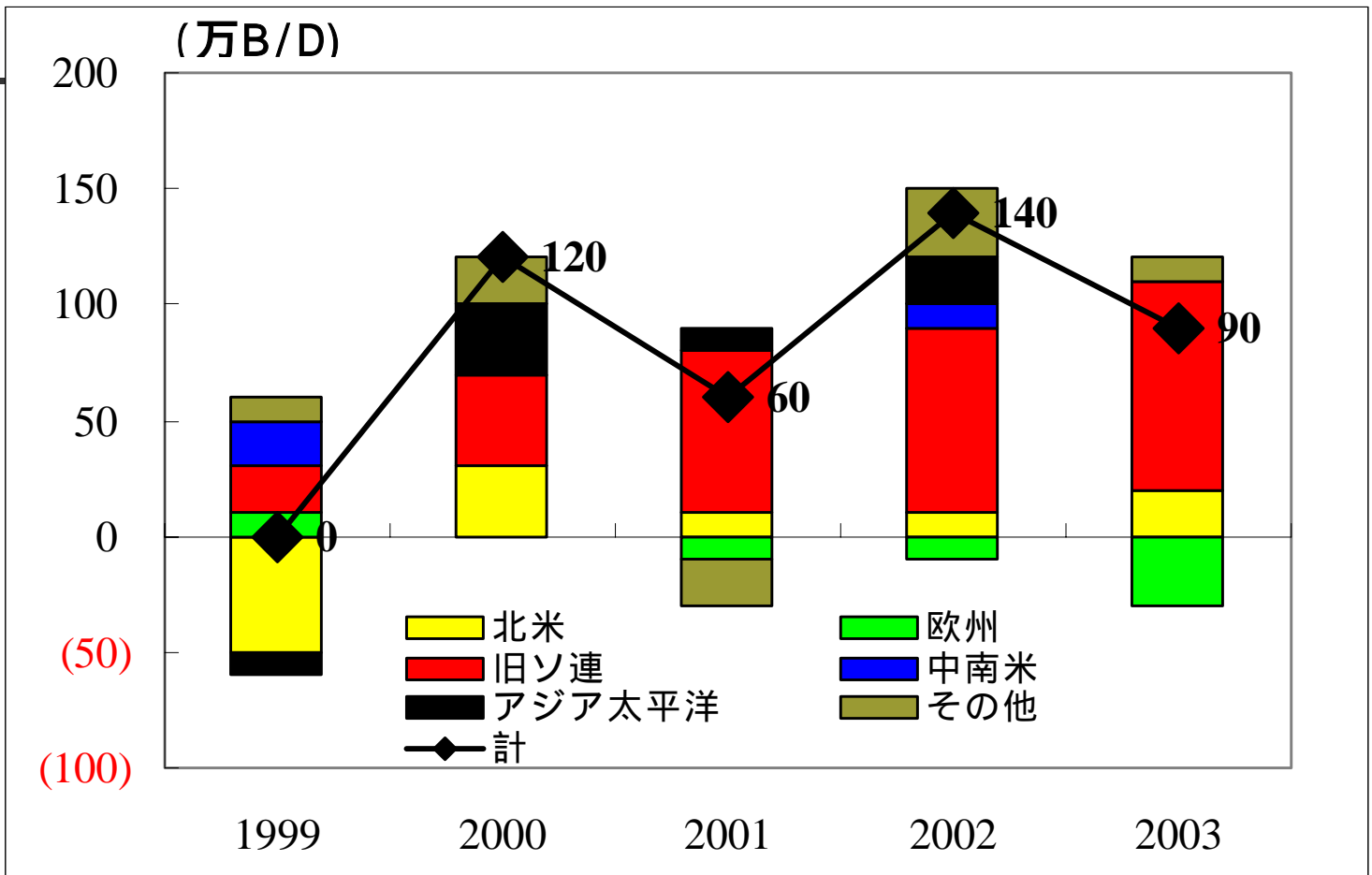
(出所) IEA、OPEC、EIA資料等よりエネ研作成

非OPEC石油生産の推移



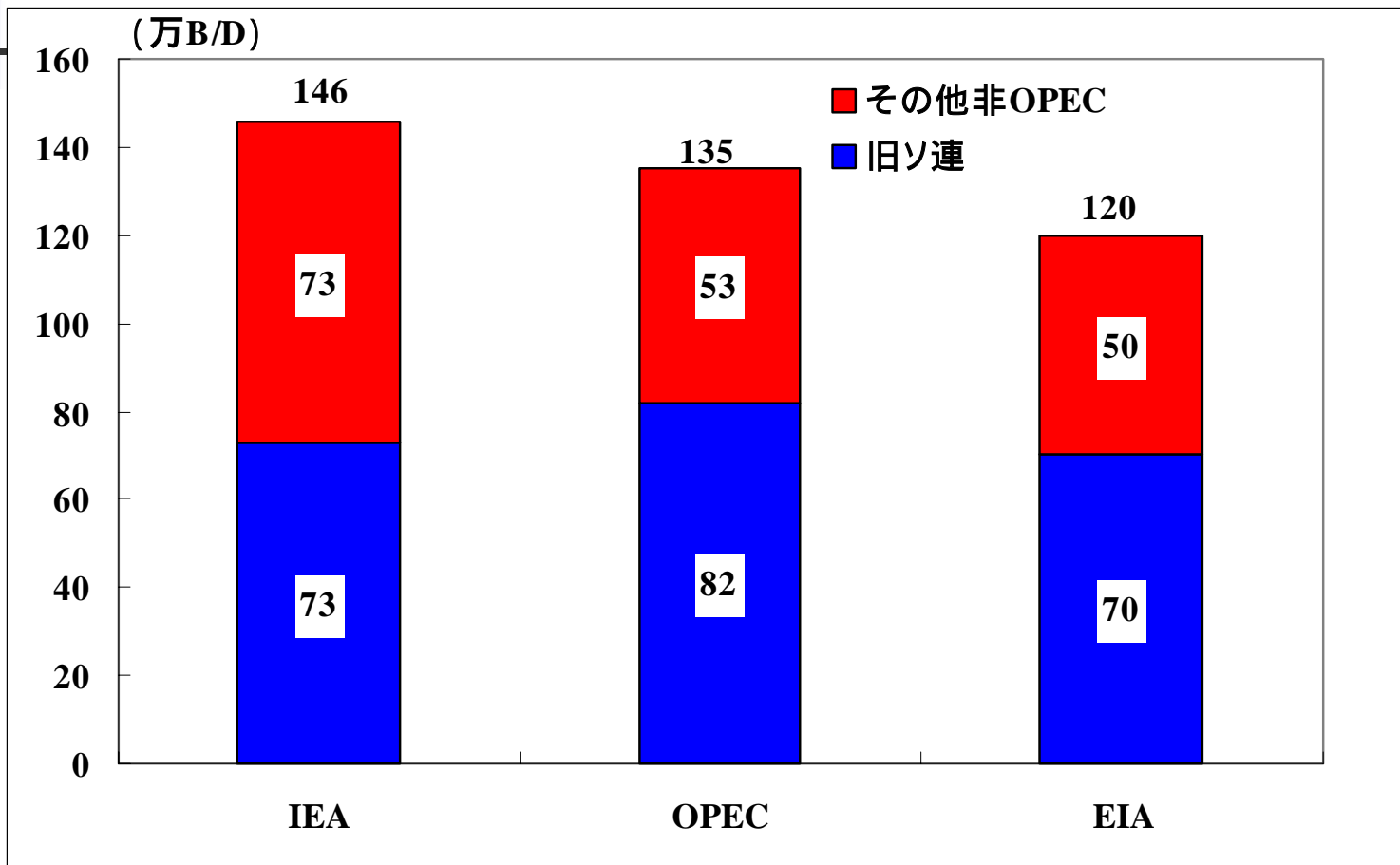
(出所) IEA「Oil Market Report」より作成

非OPEC増産の地域別推移



(出所) IEA「Oil Market Report」より作成

2004年非OPEC増産分の見通し比較



(出所)IEA、OPEC、EIA資料よりエネ研作成

2000年以降のOPEC生産政策

2000年3月、第109回総会でイランを除き生産枠145.2万B/D
引き上げを決定(実質的にはイラン含め171.6万B/D増)。

目標価格(22-28ドル)とそのための生産調整(プライスバンド制)合意。

2000年6月、第110回総会で生産枠引き上げ(70.8万B/D)決定

2000年9月、第111回総会で生産枠引き上げ(80万B/D)決定。

2000年10月31日、プライスバンド制に基づき、50万B/D増産決定。

2001年1月17日、第113回総会で150万B/D減産決定。

2001年3月16-17日、第114回総会で100万B/D減産決定。

2001年7月25日、加盟国間の合意で100万B/D減産決定。

2001年11月14日、第118回総会で非OPEC50万減産を前提に
150万B/D減産を決定

2002年12月、第122回総会で生産枠引き上げ(130万B/D)を決定

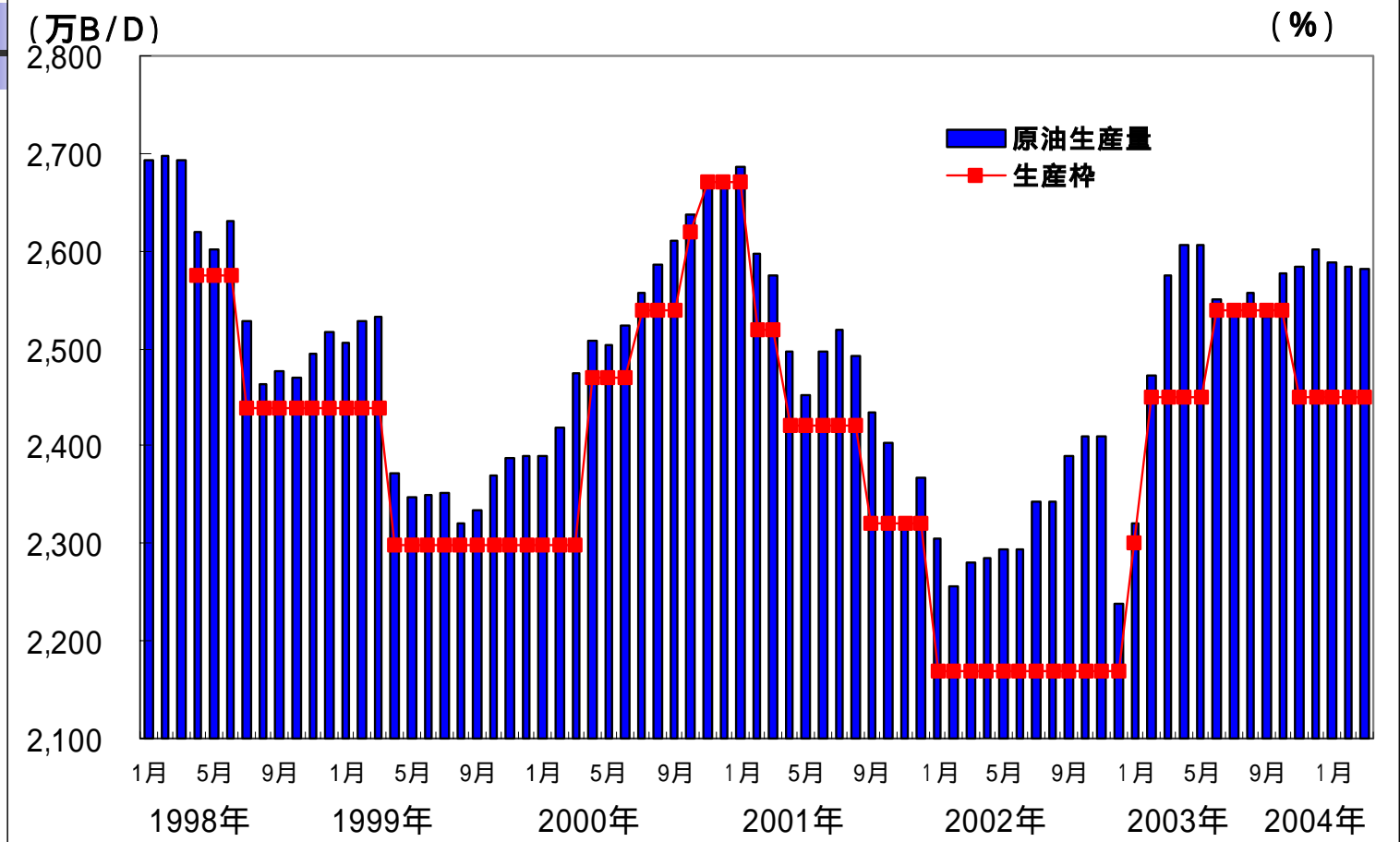
2003年1月、第123回総会で生産枠引き上げ(150万B/D)を決定

2003年4月、閣僚会合で生産枠引き上げ(90万B/D)を決定

2003年9月、第127回総会で生産枠引下げ(90万B/D)を決定

2004年2月、第129回総会で生産枠引下げ(100万B/D)を決定

OPEC10の生産調整実施の推移



(出所) IEA「Oil Market Report」より作成

OPECの原油生産状況

	原油生産能力 (1,000 B/D) (A)	2004年3月生産量 (1,000 B/D) (B)	余剰能力 (1,000 B/D) (A) - (B)	現行生産枠 (1,000 B/D)	新生産枠(4月以降) (1,000 B/D)	生産枠超過 (1,000 B/D)
アルジェリア	1,200	1,150	50	780	750	370
インドネシア	1,100	970	130	1,270	1,220	(300)
イラン	4,000	3,950	50	3,600	3,450	350
イラク	2,800	2,400	400			
クウェート	2,300	2,250	50	1,970	1,890	280
リビア	1,500	1,480	20	1,310	1,260	170
ナイジェリア	2,550	2,330	220	2,020	1,940	310
カタール	850	760	90	640	610	120
サウジアラビア	9,500	8,450	1,050	7,960	7,640	490
UAE	2,450	2,290	160	2,140	2,050	150
ベネズエラ	2,350	2,180	170	2,820	2,700	(640)
合計	30,600	28,210	2,390	24,500	23,500	1,300
OPEC10(イラク除く)	27,800	25,810	1,990			
OPEC9(イラク・ベネズエラ除く)	25,450	23,630	1,820			

(出所) IEA 「Oil Market Report」よりエネ研作成

最近のOPEC総会の決定

第129回総会

- 4月から生産枠を100万B/D削減し、2350万B/Dとすることを決定(プロラタ方式)
- 3月末までは現行生産枠への遵守改善呼びかけ
- 今後も引き続き市場状況(イラク生産回復、在庫、価格)をモニター、必要に応じた対応実施が重要と認識
 - 足元で続く原油高価格にも関わらず減産を決定
 - 「サプライズ」効果で原油価格は1~2ドル程度上昇
 - 今後の需給軟化を懸念した「プロアクティブ」な対応
 - 非OPEC増産、イラク増産の可能性、一部加盟国の増産状況等が懸念材料

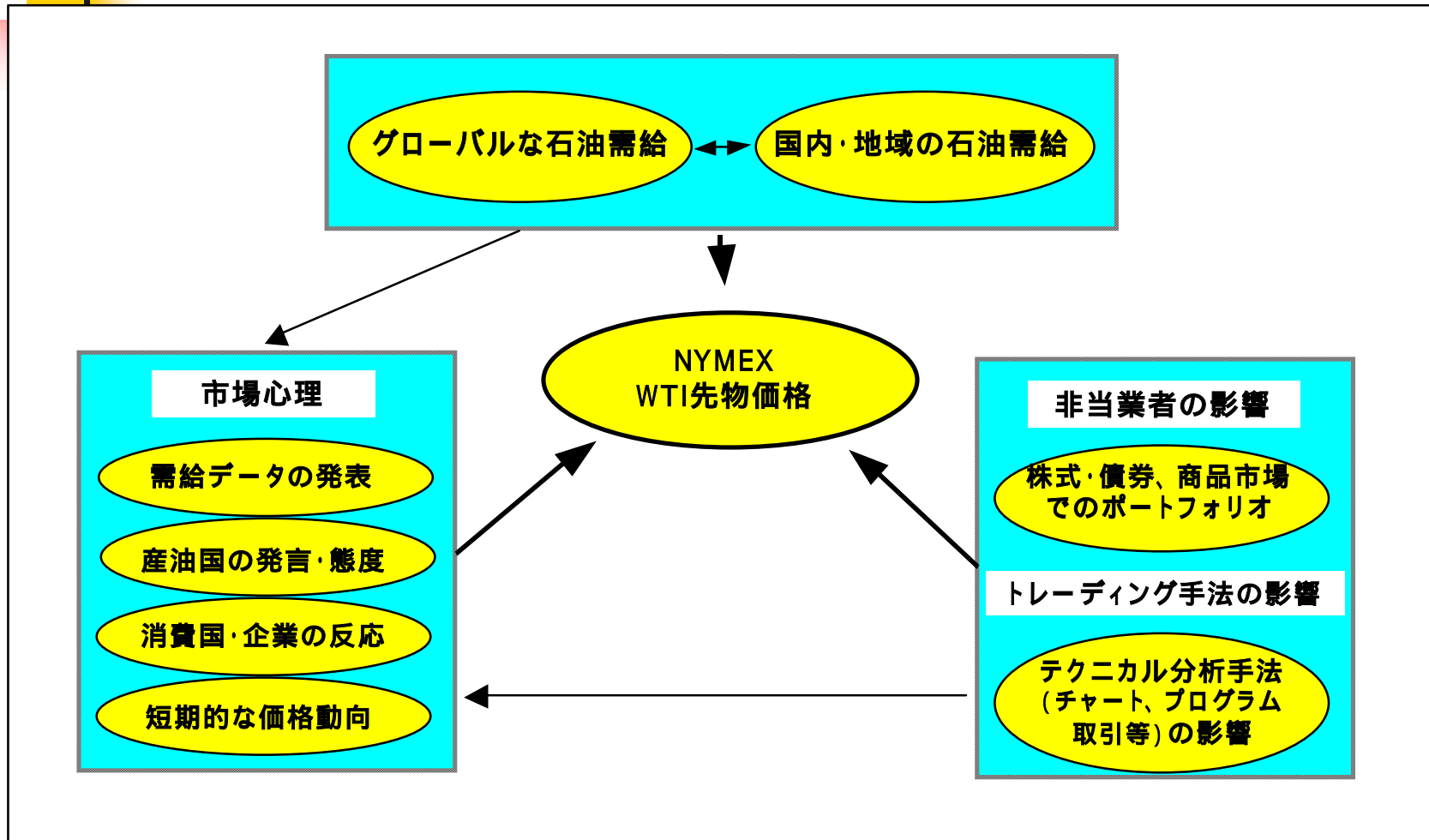
■ 第130回総会

- 4月からの減産実行を再確認

鍵を握るOPEC10の対応

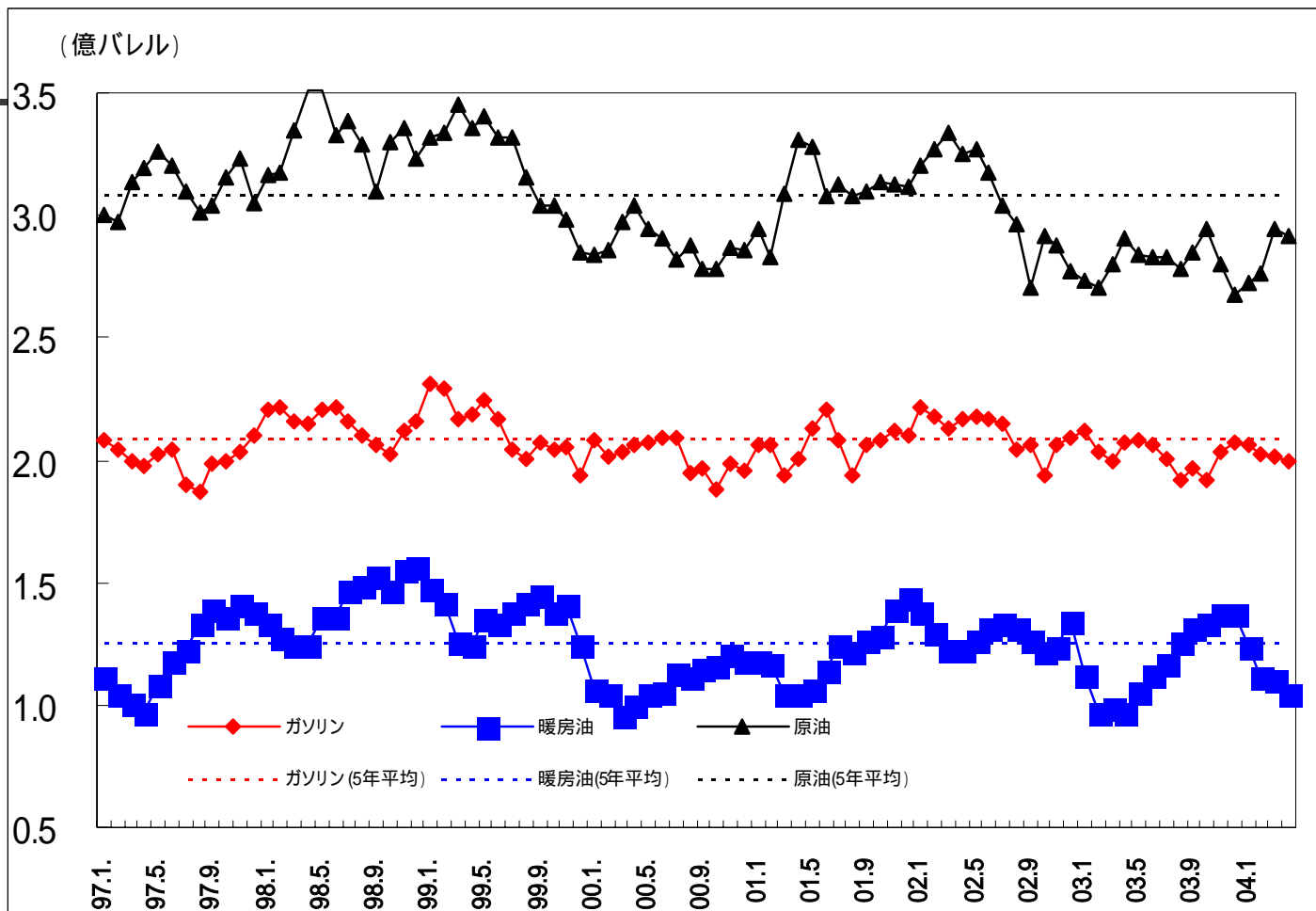
- **大幅な生産削減の必要性を「認識」(特に2Q)**
 - プロアクティブな対応、在庫状況をタイトに保持する意図(?)
 - 30ドルを大きく上回る高価格の影響および消費国側からの要求に対する対応
- **ベネズエラ、インドネシア以外の加盟国は継続的に生産枠超過**
- **アフリカOPECは能力増強を背景に増産基調**
- **非OPECによる「Free Ride」とOPECシェア低下に対する不満**
- **鍵を握るサウジの対応・指導力**

諸要因に左右されるNYMEX原油先物価格形成



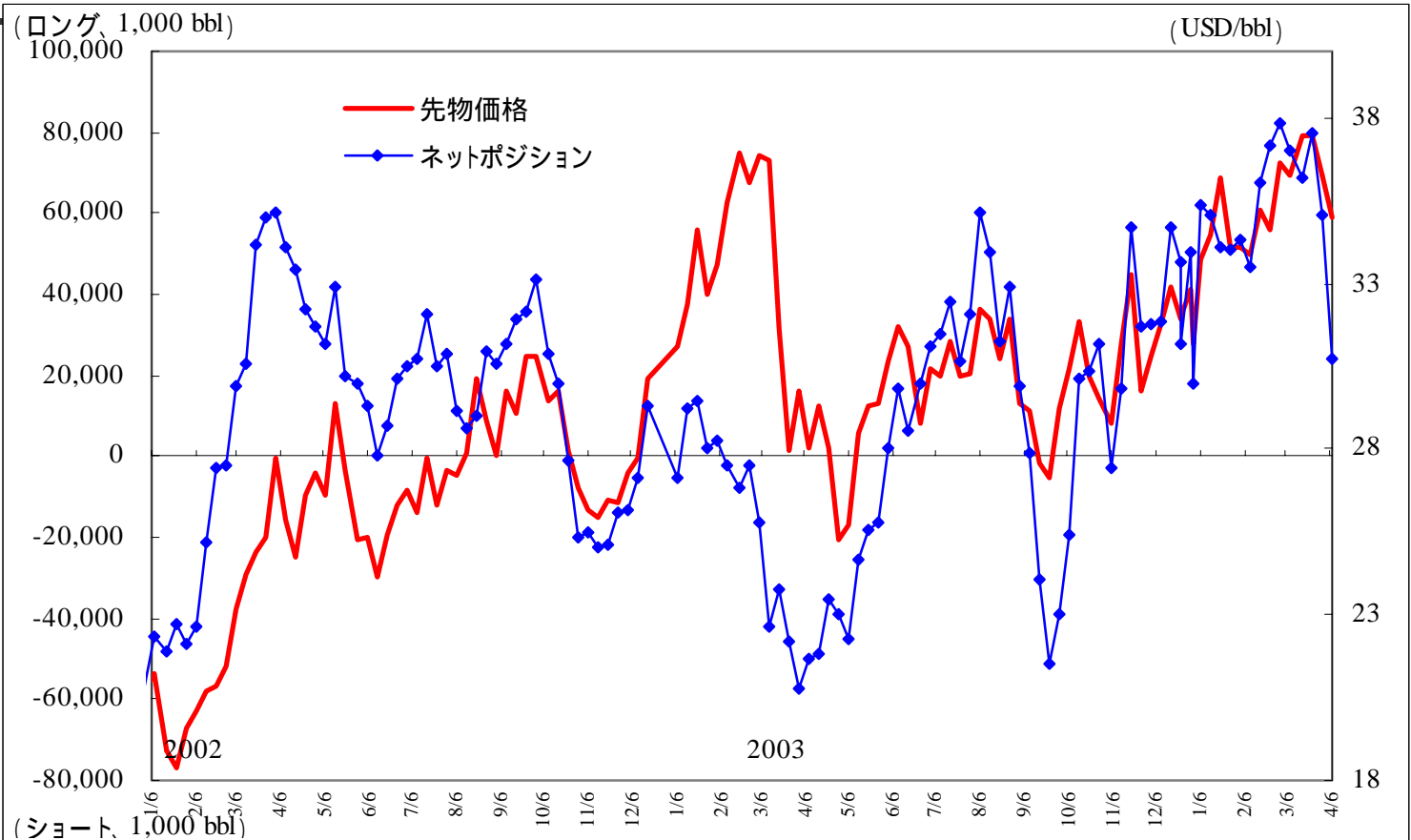
(出所) 筆者作成

石油在庫の動向(米国民間在庫)



(出所)EIA資料よりエネ研作成

非当業者売買とWTI先物価格の連動性



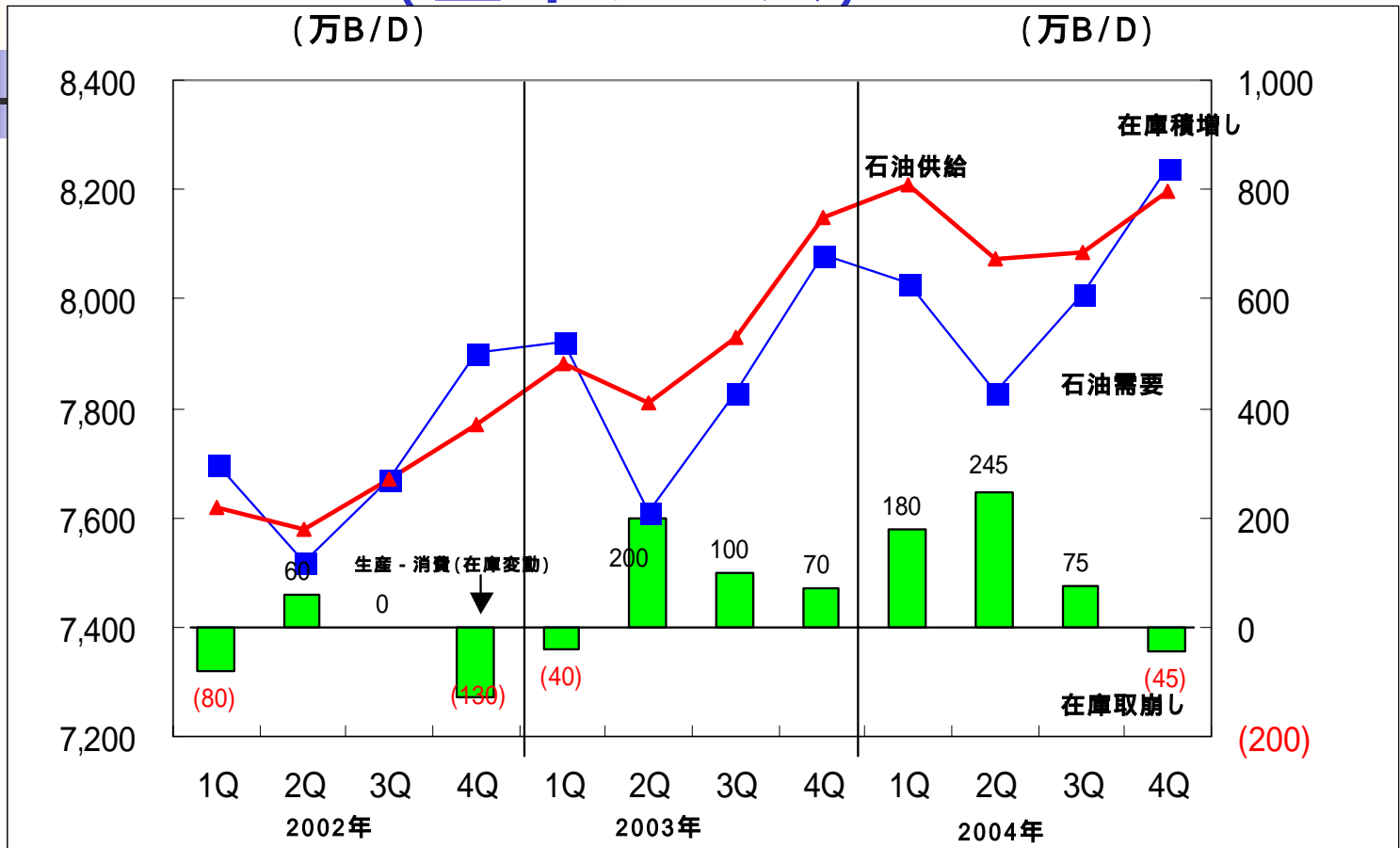
(出所)NYMEXおよびCFTC資料よりエネ研作成

2004年国際石油市場に関する基準ケース

■ 基本的な考え方(前提)

- イラク生産は現在(2004年1Q)の212万B/Dから緩やかに増加、2004年4Qには240万B/Dに
- 2004年の世界の石油需要は対前年比160万B/D程度の増加
- 2004年の非OPEC生産は対前年比150万B/D程度の増加
- 主要産油国での深刻な供給支障の発生なし
- 地政学的リスクプレミアムの影響は軽微(限定的)

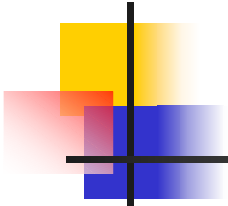
短期の石油需給バランス見通し (基準ケース)



(注) 需要見通し、非OPEC生産見通しはIEA見通しを参照。2004年2Qイク生産220万B/D、以降各Q毎10万B/D増産、OPEC10生産は04年2Q以降は新生産枠(2350万B/D)に対し遵守率75%と想定。

(出所)2004年1QまではIEA「Oil Market Report」、それ以降は筆者見通し

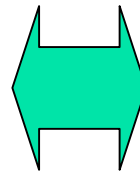
「基準ケース」の結果概要

- 
- 2004年の国際石油市場は2Q以降緩やかに需給緩和基調に
 - OPECは減産強化を志向、しかし、一部産油国の増産傾向の持続、一方的減産による市場シェア低下への不満、等から減産強化は実質的には困難
 - 原油価格には低下圧力が作用。第2四半期を中心に価格は下落、WTI年平均値は29-31ドル/バレル前後に

高価格ケースと低価格ケース

■ 高価格ケース

- イラク生産は2004年を通して200万B/D程度。時として不安定化
- 主要産油国での供給支障発生
- 対OPEC原油需要の予想外の増大
- 国際市場での需給バランスは緩和せず+リスクプレミアムの発生
- 原油価格は高止まり、2004年WTI価格は34-36ドル前後に



■ 低価格ケース

- イラク生産は予想以上に早く回復、2004年前半に250万B/D、その後も増大
- 主要産油国での供給支障発生なし
- 対OPEC原油需要の予想以上の低下
- 2004年国際石油市場は大幅な需給緩和へ
- OPEC減産規律・結束が乱れ、原油価格は大幅に低下。2004年WTI年平均値は24-26ドルまで下落

今後の原油価格をどう見るか

- 足元の国際石油市場では、OPEC減産発表、地政学的(不安定)要因、需要回復期待、低在庫状況、米ガス価格高騰等の影響で価格は高止まり(2004年1-3月の平均は35.3ドル)
現時点では「高価格ケース」に近い展開
- 当面の原油価格は35ドル±3ドルの展開か。直近時点では+3ドルに近い水準で、時間の経過と共にマイナス3ドルに近い水準での変動が中心
- 注目される2004年2Q以降の需給ファンダメンタルスとOPEC10(特にサウジ)の対応
- 実際の価格決定(形成)は先物市場(での市場心理)。市場心理への地政学的(不安定)要因への影響
- 今後のイラク情勢の展開等、市場に影響する諸要素の展開如何で大きく分かれる市場・価格の先行き
- 「イラク情勢」、「ファンダメンタルス」、「市場心理」等の影響の下、今後も高い価格ボラティリティ持続は必至

お問い合わせ: ieej-info@tky.ieej.or.jp